

重症急性呼吸器症候群コロナウイルス2感染により 呼吸器症状を呈した飼い猫の1例

山田恭嗣^{1)†} 黒田雄大²⁾ 山本つかさ²⁾ 西尾悠誠¹⁾ 山田チズ子¹⁾
小林満利子¹⁾ 森嶋康之³⁾ 前田 健²⁾



本文はこちら

1) 北海道 開業 (やまだ動物病院: 〒086-1165 標津郡中標津町緑町北1-8-3)

2) 国立感染症研究所獣医科学部 (〒162-8640 新宿区戸山1-23-1)

3) 国立感染症研究所寄生動物部 (〒162-8640 新宿区戸山1-23-1)

(2022年1月23日受付・2022年3月10日受理・2022年4月15日公開)

要 約

12歳の室内飼育猫が、くしゃみ、膿性鼻汁及び咳などの呼吸器症状を呈していたため、発症5日目に口腔スワブを採取し、重症急性呼吸器症候群コロナウイルス2 (SARS-CoV-2) の遺伝子検査を実施した。その結果、SARS-CoV-2 遺伝子が検出された。発症8日目に症状が悪化したため、当院にて一般身体検査、血液検査、胸部X線検査及び治療を行った。飼い猫には軽度の気管支炎と血清アミロイドA (SAA) の増加が認められたが、肺炎には至っていなかった。また、口腔内、鼻腔内及び肛門内のスワブを採取し、得られたサンプルの全ゲノム解析を行った結果、SARS-CoV-2 デルタ株に感染していたことが明らかになった。その後猫は回復し、回復後の血清に有意なSARS-CoV-2 中和抗体価の上昇が観察された。本症例は、SARS-CoV-2 感染により呼吸器症状を呈した国内最初の動物の報告である。

—キーワード: 猫, デルタ株, 呼吸器症状, SARS-CoV-2.

-----日獣会誌 75, e62~e68 (2022)